

授業 科目名	微生物学Ⅱ (各論) (Microbiology)	履修年次:	1 単位 1 5 時間	担当教員名: 清水 健 (非常勤講師室)
		必修: 看・歯 1 年 選択: 栄 1・4 年、理・作 1 年	コード: BHA111	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅳ 健康づくりの実践, Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、以下の項目を到達目標とした講義を行い、到達目標の達成度を評価する。 ① 病原微生物の滅菌法と消毒法を理解し、述べることができる。 ② 感染症の治療・予防法について理解し、述べるができる。 ③ 感染症の検査法について述べるができる。 ④ 感染症の問題点を理解し、対策について述べるができる。				
〔授業の概要〕 感染症は全ての診療科に関連する重要な疾患で、医療の現場では様々な感染症に対する知識が必要不可欠である。この授業では講義形式により、特徴的な感染症とその原因となる各種病原微生物を学ぶ。さらに、院内感染と感染対策、人獣共通感染症、新たな新興感染症、再興感染症を学び、いかなる感染症にも対応できる応用力を身に付ける。授業終了後には、医療の現場で感染症に対処するための基礎知識が身に付いていることを目的とする。				
キーワード: 滅菌、消毒、ワクチン、検査法、治療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	6/17	微生物の基礎	微生物の分類と特徴	
第2回	7/1	滅菌と消毒 ワクチンと予防接種	様々な滅菌・消毒法の原理と適応 ワクチンの種類と現行の予防接種	
第3回	7/8	病原体の検査法	病原微生物の主な検査法の原理と意義	
第4回	7/15	感染症の治療	抗生物質、抗菌薬、抗真菌薬、抗寄生虫薬、抗ウイルス薬	
第5回	7/22	感染症の現状と対策	新興・再興感染症、院内感染	
第6回	7/24	特徴的な病原微生物	病原細菌・病原真菌・病原原虫	
第7回	7/25	特徴的な病原微生物	主なウイルス	
第8回	7/29	まとめ	病原性微生物の対処について理解を深める	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてテキストを確認し、復習はテキスト、プリントの見直しをすること。			
テキスト	「微生物学」系統看護学講座専門基礎分野、医学書院			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験 (100%)、日ごろの学習態度により、総合的に評価する。			

授業科目名	発達心理学 (Developmental Psychology)	履修年次 選択	1 単位 15 時間	担当教員名: 高梨一彦 (非常勤講師室)
		看 2 年、栄 1, 4 年、 歯・理・作 1 年	コード: BHA112	
〔DP〕 III 実践に必要な知識、II コミュニケーション能力、IV 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 発達するということはどういうことか、また、人間として発達していくことでどのような変化があるのか、各年齢段階（乳幼児期～老年期）について発達を眺めていく。その際に社会との関わりや個人内の要因あるいはそれらの相互作用としての人格の変化や生物学的な要因などを含めて講義する。				
〔授業の概要〕 発達心理学からみた年齢による変化とその時期による違いを示す。また、人の発達を生物学的、社会的、心理学的側面の3つから扱い、医療的なかわりを行う際に注意すべき点や特質に関して各時期に関連する絵本を題材として扱いながら、発達に関する知識の定着をめざして講義する。				
キーワード: 年齢段階、発達理論、身体発達と精神発達、人間関係、ライフコース				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/14	ガイダンス・オリエンテーション	本講義を履修するに当たって注意すべきこと、履修上の約束事等の確認	
第2回	4/21	発達とは?	発達についての基本的な考え方、生涯発達の概念、遺伝と環境について	
第3回	4/28	乳幼児期の発達	発達初期の重要性と諸種の発達理論からみた乳幼児期の特徴について	
第4回	5/12	児童期の発達	他者との人間関係という視点からみた児童期の特徴と主要な発達理論における児童期のとらえ方	
第5回	5/19	青年期の発達	社会との関わりにおける青年期と身体発達の側面からみた青年期・思春期について	
第6回	5/26	壮年期・中年期の発達	身体的な変化と心の変化を通してみる成人期と壮年期について	
第7回	6/2	老年期の発達	社会的および精神的な変化と老年期	
第8回	6/9	ライフサイクルとライフコース	ライフコース論からみた発達と性差による発達の違い	
履修条件	特になし。			
予習・復習	事前に配布された資料を読んで予習する。授業後に資料を読み返して自分が取ったメモ等を確認して復習する。			
テキスト	特になし。			
参考書・参考資料等	発達心理学ハンドブック（東・繁多・田島編、1992、福村） Lifelong Human Development（John Wiley & Sons、1988）			
学生に対する評価	定期試験 60%、リアクションペーパーならびに小テスト 30%、受講態度 10%を基本にして総合的に評価する。			

授業 科目名	臨床心理学 (Clinical psychology)	必修：理・作1年	1 単位 30 時間	担当教員名： 谷 口 清 [公認心理師] (研究室：非常勤講師室) e-mail:yaguppa@gmail.com
		選択：看1年、編3年 歯1年、栄1・2・4年	コード： BHA113	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅱ コミュニケーション能力、Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 臨床心理学の基礎知識と考え方を学び、保健・医療・福祉領域の専門性として欠くことのできない、心理学的支援の視点を修得する。				
〔授業の概要〕 ① 各発達期に認められる心の問題を通して、心の仕組みとその多様な現れを学ぶ ② 心理アセスメント、心理検査について学ぶ（問題の種別と程度の客観的評価） ③ 様々な心理支援法の基本的考え方を学ぶ 公認心理師、臨床心理士としての実務経験に基づき、それぞれの心理支援法を概説して心理相談・心理援助の基本を学ぶ				
キーワード：臨床心理学、発達と精神の障害、心理アセスメント、心理支援、地域・組織援助				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/7	オリエンテーション	授業の進め方、受講に関する注意事項など	
第2回	10/21	臨床心理学とは	領域の概要（歴史・構造と機能・鍵概念）	
第3回	10/28	臨床心理学をとりまく概念	臨床心理学の見方と研究方法	
第4回	11/4	子どもをとりまく問題(1)	乳児期・児童期と児童虐待(アタッチメントの形成と障害)	
第5回	11/11	ストレスと健康	PTSD, うつ、神経症、ストレス対処	
第6回	11/18	子どもをとりまく問題(2)	発達障害・不登校・いじめ	
第7回	11/25	思春期・青年期をとりまく問題	発達課題、摂食障害、非行、自傷・自死	
第8回	12/2	成人期をとりまく問題	不安障害、パーソナリティ障害、統合失調症、嗜癖等	
第9回	12/9	心理アセスメントとは	その定義・目的・観点・実際等	
第10回	12/16	心理検査	心理検査の種類・概要、心理検査の条件・実際と限界	
第11回	12/23	心理療法(1)	心理カウンセリングと代表的心理療法	
第12回	1/6	心理療法(2)	家族療法、集団心理療法、臨床心理的地域援助等	
第13回	1/13	高齢期をとりまく問題	高齢期の特徴と心理的援助の基本姿勢、認知症	
第14回	1/20	社会の変化と臨床心理学	高度情報化社会における家族機能の変化と心理支援	
第15回	1/27	総括	授業のまとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	事前にテキストの当該部分を熟読し事後には配布資料・テキストを見直すこと			
テキスト	横田正夫 編著 ポテンシャル 臨床心理学 サイエンス社 2016年 谷口 清 著 発達臨床心理学 遠見書房 2018年			
参考書・参考資料等	授業時に配布する			
学生に対する評価	筆記試験（もしくはレポート）80%と通常授業への取り組み姿勢（授業態度・課題の遂行）20%で評価する。			

授業 科目名	健康論 (Studies of health)	必修：作1年	1 単位 15 時間	担当教員名： 渡辺 満利子 [医学博士・管理栄養士] (非常勤講師室)
		選択：看1年, 栄1.2.4, 歯1, 理1年	コード: BHB101	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム, III 健康づくりに必要な知識, IV 健康づくりの実践法				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業は, 倫理観とプロフェッショナリズムに則り, 人間の健康維持・管理の実践に必要な知識と実践法の獲得を目標に, 次テーマを学修できる.				
① 各世代の健康課題アセスメント・目標設定・実施・評価法を学習し健康づくり方策を獲得できる.				
② 千葉県民の健康課題アセスメント・目標設定・実施・評価法を学習し健康づくり方策を獲得できる.				
〔授業概要〕				
国策の健康寿命延伸と健康格差の縮小に則り, 個人の食事・運動・睡眠等の改善, 加えて, ライフコースアプローチ (胎児期から高齢期に至る人の生涯を経時的に捉えた健康づくり) を学習し, 健康寿命の三大リスク: メタボ・認知症・ロコモ予防には, 青少年期の健康なライフスタイルが基盤となり成人期・高齢期の健康に繋がる. 人生 100 年時代を老い衰え, 生きるのではなく, 生き生き生き抜く 健康方策を学習する. 併せて, 千葉県民の健康増進プラン策定・実践・評価策を学習する. 担当者は, 昭和女子大学大学院教授(医学博士), 熊本県立大学客員教授を歴任, 教育・研究のエビデンスを活用し, 医療法人社団) 成人病医学センター(新宿), 同)そら内科クリニック(埼玉) (医学博士・管理栄養士)の 実務経験に拠り, 各世代における健康対策・疾病予防策・重症化予防策等を PDCA に基づき獲得できる.				
キーワード:健康寿命延伸・健康格差縮小・ライフコース・アセスメント・プログラム・実践・評価				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回 17:15-18:00	5/29	健康とは 1	授業ガイダンス、シラバスに基づき授業目標、授業概要、学生に対する評価等について、併せて、健康とは、その意義について学習。	
第2回 16:30-18:00	6/5	健康指標 1	国策の「健康日本 21 (第三次)」健康寿命延伸、健康格差縮小、ライフコースアプローチ、その基本：食事・運動・睡眠について。	
第3回 以下同上	6/12	健康指標 2	青少年期,健康な生活習慣を身に付ける確かな実践法を学習する。 この実践こそ, 健康寿命延伸の重要基盤となることを学習する。	
第4回	6/19	健康指標 3	成人期の NCDs 発症と重症化予防、健康寿命延伸の 3 大リスク： メタボ・認知症・ロコモ予防策と医療について学習する。	
第5回	6/26	健康指標 4	人生 100 年時代の高齢期の生活の質 (Quality of life) を思考し、 健康課題と課題解決のための方策について学習する。	
第6回	7/3	健康増進活動 1	千葉県民の健康に係る生活習慣の現状(R5)を読み解き、 千葉県民の健康課題をアセスメントし,目標設定法を学習する。	
第7回	7/10	健康増進活動 2	上記事例に基づき PDCA: Plan→Do→Check→Action の具体的な 方策案を検討し策定する。	
第8回	7/17	まとめ	授業全体を通したまとめ	
履修条件		特になし。		
予習・復習		配布資料・ノートを熟読, 理解し, 関連分野の学習を深める。		
テキスト		テキストに準ずる配布資料とする。		
参考書・参考資料等		授業時に適宜提示する。		
学生に対する評価		定期試験 (80 %) , 日ごろの学習態度 (20 %) により, 総合的に評価する。		

授業 科目名	公衆衛生学 I (基礎) (Public Health)	必修：看護1年、 栄・歯・理2年	単位数： 1単位 15時間	担当教員名： 科目責任者 中込敦士 (非常勤講師室) ほか
		選択：作業2年 実務経験のある教員による授業科目	コード：BHB102	

[DP] V 健康づくりの環境の整備・改善 III 実践に必要な知識

[授業の到達目標及びテーマ]

現代社会では、感染症の流行、生活習慣病、少子高齢化、地球環境問題、健康格差、災害など様々な問題が人々の健康を脅かしている。このような健康課題を、社会全体として解決していくことが公衆衛生の目的である。保健・医療・福祉の専門職として、公衆衛生の目的、歴史、考え方、手法を学び、地域の中で展開される様々な公衆衛生活動の実例を理論的に説明できることを目標とする。

[授業の概要] 公衆衛生学は人々の安全安心、健康増進のために科学、社会学、統計学の手法を駆使して、健康問題を解決することを目指している。講義では法規やシステム、数値の単なる暗記とならないように、考える力、自ら問題を発見し解決する能力を養う。医師・保健師・作業療法士が実務経験により、実例を用いた授業を行う。

キーワード：公衆衛生、予防、環境、保健統計、社会医学

[授業計画]

回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	4/9	公衆衛生とは	公衆衛生の理念、健康の概念・定義、公衆衛生の課題	中込敦士 [医師]
第2回	4/16	公衆衛生の歴史	近代の公衆衛生の発展、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、SDGs	田村元樹 [元医療経済研究機構・日本医療政策機構]
第3回	4/23	疾病予防と健康管理	予防の概念 (一次/二次/三次予防、ポピュレーションアプローチ/ハイリスクアプローチ)、地域アセスメント	小林周平 [作業療法士]
第4回	4/30	健康と環境	地球環境、環境保全対策、生活環境の安全、建造環境	阿部紀之 [理学療法士]
第5回	5/7	人口統計・保健統計	人口問題、人口動態統計、国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査	井手一茂 [理学療法士]
第6回	5/14	健康と社会	社会的決定要因、社会的公正、ソーシャルキャピタル	近藤克則 [医師]
第7回	5/21	地域保健	地方自治のしくみ、保健所、保健センター	中込(灯) [保健師]
第8回	5/28	まとめ、最新のトピックス	行動経済学、アプリの活用	中込敦士 [医師]

履修条件	特になし
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。
テキスト	シンプル衛生公衆衛生学、南江堂
参考書・参考資料等	国民衛生の動向、e-Stat (政府統計の総合窓口)、公衆衛生 第5版 (ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障 2) など適宜紹介する
学生に対する評価	各回の課題 (20%)、試験 (80%)

授業 科目名	公衆衛生学 II (応用) (Public Health II)	必修：看護・栄養 2 年 選択：歯・ 理・作 2 年 実務経験のある教員による授業科目	単位数： 1 単位 15 時間 コード：BHB201	担当教員名： 科目責任者 中込敦士 (非常勤講師室) ほか
〔DP〕 V 健康づくりの環境の整備・改善 III 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 公衆衛生学では、集団レベルでの健康の増進と疾患の予防を考える。この講義では公衆衛生学 I で学んだ基礎的事項をもとに、最新データを用いながら日本の公衆衛生の現状や課題、公衆衛生行政の役割について学ぶことを目的とする。				
〔授業の概要〕 公衆衛生学は人々の安全安心、健康増進のために科学、社会学、統計学の手法を駆使して、健康問題を解決することを目指している。講義では法規やシステム、数値の単なる暗記とならないように、考える力、自ら問題を発見し解決する能力を養う。医師・保健師・作業療法士が実務経験により、実例を用いた授業を行う。				
キーワード：公衆衛生、予防、保健制度、医療制度				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当
第1回	11/19	精神保健	精神障害、精神保健福祉法、障害者総合支援法	井手一茂 [理学療法士]
第2回	11/26	母子保健・高齢者保健	母子保健対策・施策、高齢者保健、認知症と対策	阿部紀之 [理学療法士]
第3回	12/3	医療制度 1	国民医療費、医療機関、健康保険	飯塚玄明 [医師]
第4回	12/10	医療制度 2	医療法、医療計画、地域包括ケア	飯塚玄明 [医師]
第5回	12/17	社会保障	社会保障制度、社会保障費、生活保護、年金	田村元樹 [元医療経済研究機構・日本医療政策機構]
第6回	1/7	感染症	感染症の流行状況、主な感染症予防対策、予防接種	小林周平 [作業療法士]
第7回	1/14	産業保健	職場の安全・労働衛生 3 管理・健康経営・健康行動変容・ヘルスリテラシー・健康を支援する職場環境づくり	武藤剛 [医師]
第8回	1/21	まとめ	まとめ	中込敦士 [医師]
履修条件	特になし (公衆衛生学 I を履修していることが望ましい)			
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。			
テキスト	シンプル衛生公衆衛生学、南江堂 (公衆衛生学 I と同じ教科書)			
参考書・参考資料等	国民衛生の動向、e-Stat (政府統計の総合窓口)、公衆衛生 第 5 版 (ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障 2) など適宜紹介する			
学生に対する評価	各回の課題 (20%)、試験 (80%)			

授業 科目名	授業科目名： 疫学・保健統計 I(基礎) (Epidemiology and health statistics I Basic)	必修：看、栄3年	1単位 15時間	担当教員名： 山村重雄 [薬剤師] (非常勤講師室)
		選択：歯、理、作3年	コード：BHB103	
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] V 健康づくりの環境の整備・改善 III 実践に必要な知識				
[授業の到達目標及びテーマ] 医療や保健に関連する情報は世の中に数多く存在しているが、中には怪しい情報もたくさんある。医療や保健の領域で働く専門職にとって必要な情報を正しく読み取り、患者に正確に伝えるスキルは必須である。さまざまな医療行為や介入が有用であることを証明するためには科学的な考え方が必要である。ここでいう科学的考え方の基本となるものが疫学と統計学である。様々な医療に関わる情報を科学的に評価することができるようになる基礎を身に着けることを目的とする。				
[授業の概要] 医療に関連した情報を統計学的な考え方に基づいて科学的に読み解くための基礎を学ぶ。一つの柱である統計学からはデータの正しさをどうやって評価するかを学ぶ。もう一つである疫学からは研究デザインを学び、リスクの大きさや結果の中に潜むバイアスの可能性を考える。また、講義では、できるだけ実際のデータを用いて医療に関する情報を科学的に評価する道筋を身に着ける。疫学・保健統計 I (基礎) では統計の復習と疫学研究のデザインに関する内容を概説する。				
キーワード：疫学、生物統計、保健統計、研究デザイン				
[授業計画]				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/11	統計学の基礎 (1)	統計学の考え方、標本、母集団、データのまとめ方 (教科書第7章)	
第2回	4/18	統計学の基礎 (2)	データの代表値とばらつき、正規分布 (教科書第7章)	
第3回	4/25	統計学の基礎 (3)	相関係数と回帰係数、検定と推定 (教科書第7章)	
第4回	5/2	統計学の基礎 (4)	検定各論、 χ^2 二乗検定、t 検定 (教科書第7章)	
第5回	5/9	疫学の概念	疫学の概念と歴史 (教科書第1章)	
第6回	5/16	疫学研究 (1)	記述疫学とそのデザイン (教科書第2章)	
第7回	5/23	疫学研究 (2)	症例対照研究とコホート研究 (教科書第2章)	
第8回	5/30	疫学研究 (3)	リスク指標の計算とバイアス (教科書第2章) 0.5 回分	
履修条件		電卓を持ってきてください。携帯でも可		
予習・復習		予習としてテキストを読んでくること。毎回講義の後に課題を出すので指定日までに Teams を経由して提出すること。		
テキスト		浅野嘉延著 看護学生のための疫学・保健統計 南山堂 (7、1、2章)		
参考書・参考資料等		プリント等、その都度紹介する。		
学生に対する評価		講義への参加、課題内容を含む (30%)・試験 (70%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	疫学・保健統計 II(応用) (Epidemiology and health statistics II Application)	必修：看、栄3年	1単位 15時間	担当教員名： 山村重雄[薬剤師] (非常勤講師室)
		選択：歯、理、作3年	コード：BHB202	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 V 健康づくりの環境の整備・改善 III 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 医療や保健に関連する情報は世の中に数多く存在しているが、中には怪しい情報もたくさんある。医療や保健の領域で働く専門職にとって必要な情報を正しく読み取り、患者に正確に伝えるスキルは必須である。さまざまな医療行為や介入が有用であるかを証明するためには科学的な考え方が必要である。ここでいう科学的考え方の基本となるものが疫学と統計学である。様々な医療に関わる情報を科学的に評価することができるようになる基礎を身に着けることを目的とする。				
〔授業の概要〕 医療に関連した情報を統計学的な考え方に基づいて科学的に読み解くための基礎を学ぶ。一つの柱である統計学からはデータの正しさをどうやって評価するかを学ぶ。もう一つである疫学からは研究デザインを学び、リスクの大きさや結果の中に潜むバイアスの可能性を考える。また、講義では、できるだけ実際のデータを用いて医療に関する情報を科学的に評価する道筋を身に着ける。疫学・保健統計 II(応用)では、より具体的に疫学研究で得られる結果の解釈、保健統計の読み方、スクリーニングの考え方について学ぶ。				
キーワード：人口統計、スクリーニング、感染症・生活習慣病の疫学				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	5/30	疾病頻度の指標（1）	有病率と罹患率（第3章）0.5回分	
第2回	6/6	疾病頻度の指標（2）	死亡率とその調整（第3章）	
第3回	6/13	保健統計（1）	人口静態統計（第4章）	
第4回	6/20	保健統計（2）	人口動態統計（第4章）	
第5回	6/27	スクリーニング（1）	スクリーニングの意味、感度と特異度（第5章）	
第6回	7/4	スクリーニング（2）	スクリーニング結果の見方（第5章）	
第7回	7/11	主な疾患の疫学	感染症の疫学、感染症以外の疫学（第6章）	
第8回	7/18	まとめ	全体のまとめ、特に計算問題の復習	
履修条件	電卓を持ってきてください。携帯でも可			
予習・復習	予習としてテキストを読んでもらうこと。毎回講義の後に課題を出すので指定日までに Teams を経由して提出すること。			
テキスト	浅野嘉延著 看護学生のための疫学・保健統計 南山堂（3－6章）			
参考書・参考資料等	プリント等、その都度紹介する。			
学生に対する評価	講義への参加、課題内容を含む（30%）・試験（70%）により総合的に評価する。			

授業 科目名	リハビリテーション概論 (Introduction to rehabilitation)	履修年次: 必修:看2・歯2・ 理1・作1 選択:栄2, 3	1 単位 15 時間 コード:BHB104	担当教員名: 金子 徹 [リハビリテーション科医 師] (研究室:仁戸名2)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 III 実践に必要な知識, I 倫理観とプロフェッショナリズム, II コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 「リハビリ」という言葉は日常生活の中でよく見聞きするが、その多くは「機能回復訓練」「社会復帰」の意味で使用されている。これは「リハビリテーション」本来の持つ意味のごく一部でしかない。この授業では「リハビリテーション」の4つの側面(「医療」「教育」「社会」「職業」)を理解できることを目標とする。				
〔授業の概要〕 リハビリテーションの概念、障害の捉え方などについての基本的知識・考え方を修得する。本科目では、リハビリテーションの定義・歴史的背景、国際生活機能分類に基づく障害構造、わが国におけるリハビリテーション医療の流れ、ノーマライゼーションの理念などを知り、チームアプローチによってリハビリテーション医療が行われること理解する。身体的な障害に限らずストレス等を含む精神的な障害にも共感できることも目的とする。リハビリテーション科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。				
キーワード: ーマライゼーション、ADL、QOL、ICIDH、ICF				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	11/20	リハビリテーションとは	英語「Rehabilitation」の意味、障害者に関連するマーク	
第2回	11/27	リハビリテーションの歴史	リハビリテーションの歴史・4つの側面・定義	
第3回	12/4	障害の階層・分類	国際障害分類 (ICIDH) と国際生活機能分類 (ICF)	
第4回	12/11	リハビリテーション医療 1	リハ医療の対象となる障害 (1)	
第5回	12/18	リハビリテーション医療 2	リハ医療の対象となる障害 (2)	
第6回	1/8	日常生活活動の障害	ADL (日常生活活動) 障害	
第7回	1/22	障害者心理、リハ職種	障害者の心理、評価、リハビリテーション医療に関わる職種、リハ医療の進め方	
第8回	1/29	社会復帰にむけて	いろいろな社会資源、障害者に関連するマーク	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習より復習を重視する。「障害者」関係のニュースに注目していること。復習にはノートの見直しを推奨する。			
テキスト	指定しない。購入を推奨する参考書について初回の講義で説明する。			
参考書・参考資料等	「リハビリテーション医療入門 増補版」武智 秀夫 著 医学書院刊 「目でみるリハビリテーション医学 第2版」上田 敏 著 東京大学出版会刊 「リハビリテーション医学・医療コアテキスト 第2版」医学書院刊 「リハビリテーションの思想 第2版 増補版」上田 敏 著 医学書院刊			
学生に対する評価	定期試験(90%)、日ごろの学習態度(10%)により評価する。			

授業科目名	救命・救急の理論と実際 Theory of Emergency Care	履修年次 必修：看2年・看編3年 理2年・作2年 歯2年 選択：栄2・4年	単位数 1単位 15時間	担当教員名： 科目責任者 三枝香代子〔看護師〕 (研究室 教育棟 B318) 田口智恵美〔看護師〕・大内美穂子〔看護師〕 大塚 知子〔看護師〕・坂本 明子〔看護師〕 臼井 智子〔看護師〕
		実務経験のある教員による授業科目	コード BHB203	
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、III 実践に必要な知識、VI 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
①わが国の救急医療体制についての理解を基盤に、わが国そして千葉県における救急医療の現状と課題を理解できる。 ②一次救命処置（BLS）および応急処置の理論を理解し、一次救命処置の基本技術を習得できる。				
〔授業の概要〕 わが国および千葉県における救急医療の現状と課題について教授する。また、プレホスピタルケアにおいて重要な役割を果たす救急救命士の役割と活動、脳死状態に陥った救急患者に対して行われる臓器移植の現状と課題、一次救命処置および応急処置の理論について実務経験に基づき教授し、さらに演習をとおして一次救命処置の基本技術の獲得をめざす。				
キーワード：救急医療、救急医療体制、心肺蘇生法、臓器移植、救急救命士				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	担当者
第1回	4/11Ⅲ	ガイダンス	履修の準備、受講に関する注意事項など	三枝香代子
第2回	4/18Ⅲ	一次救命処置および応急処置の理論	一次救命処置および応急処置を実施するための理論	三枝香代子
第3回	4/25Ⅲ	わが国の救急医療体制	わが国の救急医療体制、救急医療の現状と課題	田口智恵美
第4回	4/22Ⅲ② 4/23Ⅲ①	一次救命処置の実際 (看護のみ)	グループに分かれて一次救命処置の演習	三枝香代子 田口智恵美 大内美穂子
第4回	5/2Ⅲ	一次救命処置の実際 (歯科・理学・作業のみ)	グループに分かれて一次救命処置の演習	大塚 知子 坂本 明子 臼井 智子
第5回	5/9Ⅲ	千葉県における救急医療体制	千葉県の救急医療体制、救急医療の現状と課題	特別講義講師 〔医師〕
第6回	5/16Ⅲ	救急救命士の役割と活動の実際	救急救命士が果たす役割と活動の実際	特別講義講師 〔救急救命士〕
第7回	5/23Ⅲ	救急患者と臓器移植	救急患者と臓器移植	特別講義講師 〔看護師〕
第8回	5/30Ⅲ	まとめ	授業全体を通じたまとめ	三枝香代子
履修条件	演習を行う都合上受け入れ学生は160名程度とする。第1回目授業で人数調整を行うため、受講希望者は必ず出席すること。第1回目授業を欠席した者の受講は認めない。			
予習・復習	各担当教員の指示による			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験（50%）、技術の修得状況（40%）、態度（10%）により評価する。			